

『「南の宝箱 鹿児島」輸出拡大ビジョン～かごしまの農林水産物・食品を海外へ～』（案）の概要

趣旨

- ◇ 現行ビジョンの策定（平成30年3月）後、本県の農林水産物の輸出は拡大を続け、令和6年度の輸出実績は約471億円となり、過去最高を更新。
- ◇ 国内の人口減少に伴い食需要の減退が見込まれる中、本県の基幹産業である農林水産業を維持・発展させるためには、農林水産物・加工食品の輸出に取組み、海外から稼ぐ力を強化する必要がある。
- ◇ 輸出重点品目、輸出重点国・地域に加え、今後輸出拡大が期待される品目や国・地域を設定し、輸出目標額800億円の実現に向け、鹿児島の強みを生かした戦略的取組を継続的に展開。
- ◇ 農林水産物・加工食品の輸出拡大により地域経済の好循環を高め、「攻め」の農林水産業の実現と地域の魅力・資源を生かした産業の振興を目指す。

現状・課題

【現状】

- 令和6年度（2024年）の県産農林水産物の輸出額は、過去最高の約471億円

<内訳>

- ・牛肉等の畜産物 : 約176億円
- ・お茶等の農産物 : 約74億円
- ・丸太等の林産物 : 約47億円
- ・養殖ブリ等の水産物 : 約174億円

- 主な輸出相手国・地域は、畜産物と水産物が米国、農産物が米国やアジア諸国、林産物が中国

【課題】

- 更なる輸出拡大に向けては、
 - ① 海外のニーズに対応できる生産・輸出体制等の構築
 - ② 生産・輸送コストの低減
 - ③ 高品質流通技術の開発・普及
 - ④ 動植物検疫や認証基準への対応
 - ⑤ 海外での認知度向上
 - ⑥ 市場の不確実性に対応するための輸出先の多角化

の取組等が必要

ビジョンの実現に向けた戦略的取組

輸出サプライチェーンを「つくる」、「あつめる・はこぶ」、「うる」の3つに柱立て。それぞれに「かう」側の視点を入れた取組を進める。

つくる

- 輸出向け生産者の確保・育成による裾野の拡大
- スマート農業技術等による生産コストの低減
- 輸出先国のニーズに対応した生産・加工品の開発
- 國際水準の認証取得、施設整備 など

あつめる・はこぶ

- 輸出集荷組織の育成
- 混載等による輸送コストの低減
- 県内港湾・空港の活用など、効率的な輸出物流の構築
- 鮮度保持技術の研究・開発の推進 など

うる

- 商談会等への参加やバイヤー招へい等による商談機会の創出・販路拡大
- 海外での販売促進活動・本県の食文化の積極的な海外発信
- 輸出先の多角化推進
- インバウンド向けの県産品の魅力発信 など

重点品目

牛肉、鶏肉、鶏卵、お茶、さつまいも、柑橘（きんかん、大将季等）、

木材（丸太等）、水産物（養殖ブリ・カンパチ・鰹節等）、焼酎

野菜類（キャベツ、大根等）、米粉、切り花等、その他酒類（ウイスキー、リキュール等）、菓子、調味料（黒酢、味噌、醤油等）

今後輸出拡大が期待される品目

米国、ASEAN諸国（シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム等）、台湾、中国、香港、EU等、韓国

重点国・地域

中東地域（UAE等）、インド

今後輸出拡大が期待される国・地域

目指す姿

令和12年度（2030年）

農林水産物・加工食品の輸出拡大による「攻め」の農林水産業を実現

- ◆ 輸出重点国・地域に向け農林水産物・加工食品が安定的・持続的に輸出

- ◆ 今後輸出拡大が期待される国・地域に向けた積極的な販路開拓

- ◆ 海外への販路拡大により、農業生産・食品製造の基盤を維持・確保

- ◆ 輸出拡大により、農林漁業者の所得が向上し、後継者が確保され、稼ぐ力の向上による農林水産業の発展と産業の振興に貢献

輸出目標額は基準年（令和6年度）の約1.7倍

約800億円を実現

（うち農林水産物約785億円）

生産者団体等との情報共有、国際情勢や輸出実績を踏まえた検証等を実施